

第165回南極地域観測統合推進本部総会

議事の記録

1. 日時： 令和6年10月28日（月）15：00～16：40

2. 場所： オンライン開催

3. 出席者：

（委員）

相川 哲也	日本学術会議事務局長
堀内 義規	文部科学省研究開発局長
山本 悟司	国土地理院長
森 隆志	気象庁長官 (代理:平石 直孝 気象庁大気海洋部環境・海洋気象課長)
瀬口 良夫	海上保安庁長官 (代理: 森下 泰成 海上保安庁海洋情報部沿岸調査課長)
江淵 直人	国立大学法人北海道大学低温科学研究所 教授
大沢 直樹	国立大学法人大阪大学大学院工学研究科 教授
大城 和恵	社会医療法人孝仁会 札幌孝仁会記念病院 医師
小山内 康人	国立大学法人九州大学 名誉教授
塩川 和夫	国立大学法人東海国立大学機構名古屋大学宇宙地球環境研究所 教授
高村 ゆかり	国立大学法人東京大学未来ビジョン研究センター 教授
瀧澤 美奈子	科学ジャーナリスト
津田 敦	国立大学法人東京大学 理事・副学長 兼大気海洋研究所 特任教授
福井 学	国立大学法人北海道大学低温科学研究所 特任教授
森本 真司	国立大学法人東北大学大学院理学研究科 教授

（幹事）

新田 浩史	日本学術会議事務局参事官(審議第二担当)
松井 正幸	総務省国際戦略局技術政策課長 (代理:野間 邦夫 総務省国際戦略局技術政策課長補佐)
中川 勝広	国立研究開発法人情報通信研究機構電磁波研究所長
布施 吉章	外務省国際協力局地球環境課長 (代理:北尾 るみ子 外務省国際協力局地球環境課主査)
河本 光博	財務省主計局主計官(文部科学係担当)
橋爪 淳	文部科学省大臣官房審議官(研究開発局担当)
堀野 晶三	文部科学省大臣官房会計課長
小野 賢志	文部科学省大臣官房広報室長(文部科学広報官)

上田 光幸	文部科学省研究開発局開発企画課長
中川 尚志	文部科学省研究開発局海洋地球課長
野木 義史	大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立極地研究所長
榎本 浩之	大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立極地研究所副所長
伊村 智	大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立極地研究所副所長
堤 雅基	大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立極地研究所副所長
荒木 裕人	厚生労働省健康・生活衛生局感染症対策部感染症対策課長
長谷川 裕康	水産庁増殖推進部研究指導課長 (代理:水産庁 増殖推進部 研究指導課 田中庸介 研究管理官)
安田 篤	経済産業省イノベーション・環境局総務課長
長谷川 裕之	国土地理院企画部長 (代理:金指 敦子 国土地理院企画部国際課国際企画係長)
樋口 浩	気象庁総務部総務課長 (代理:久光 純司 気象庁大気海洋部環境・海洋気象課南極観測事務室長)
浅井 俊隆	海上保安庁総務部政務課長 (代理:佐藤 勝彦 海上保安庁海洋情報部沿岸調査課長補佐)
番匠 克二	環境省自然環境局自然環境計画課長 (代理:田中 英二 環境省自然環境局自然環境計画課生物多様性国際企画官)
瀬川 篤史	防衛省人事教育局人材育成課長
(オブザーバー)	
溝口 正治	防衛省人事教育局人材育成課
駒田 泰良	防衛省人事教育局人材育成課
小坂 樹範	防衛省海上幕僚監部防衛部運用支援課運用支援班
潟手 邦伸	防衛省海上幕僚監部防衛部運用支援課企画班
藤井 洋二	防衛省海上幕僚監部装備計画部航空機課回転翼班長
戎 敬太郎	防衛省海上幕僚監部装備計画部航空機課回転翼班
伊藤 百合香	環境省自然環境局 自然環境計画課 国際森林・極地・乾燥地生態系保全対策係長
堀田 継匡	国立極地研究所南極観測センター 副センター長(事業担当)
牛尾 収輝	国立極地研究所南極観測センター オペレーション室長
藤野 博行	国立極地研究所南極観測センター マネージャー(設営業務担当)
宮本 仁美	国立極地研究所南極観測センター マネージャー(企画業務担当)
原田 尚美	第 66 次南極地域観測隊隊長(兼夏隊長)
藤田 建	第 66 次南極地域観測隊副隊長(兼越冬隊長)
川村 賢二	第 66 次南極地域観測隊副隊長(兼夏副隊長)

4. 議 事：

- (1) 事務局より、当日の議題・配布資料について確認があった。
- (2) 事務局より、当日の議題・配布資料について確認があった。議題 7 および 8 については、人事に関わる案件のため、運営規則に基づき非公開の取扱いとすることになった。
- (3) 以下の議題について、報告及び審議がなされ、審議事項について原案のとおり了承された。

《 報告事項 》

1. 南極研究科学委員会（SCAR）および南極観測実施責任者評議会（COMNAP）の状況について
2. 第 6 5 次南極地域観測隊越冬隊の現況等について
3. 航空機（CH-101）93号機の用途廃止について
4. 令和 7 年度南極地域観測事業概算要求の概要について

《 審議事項 》

5. 第 6 6 次南極地域観測隊行動実施計画（案）等について
6. 南極条約第 7 条 5 に基づく事前通告のための電子情報交換システム（EIES）（案）について
7. 第 6 6 次南極地域観測隊同行者（案）について
8. 第 6 7 次南極地域観測隊長及び副隊長（案）について
9. その他

主な意見は下記の通り。

- | | |
|---|---|
| [| <p>報告 1. 南極研究科学委員会（SCAR）および南極観測実施責任者評議会（COMNAP）の状況について</p> <p>報告 2. 第 6 5 次南極地域観測隊越冬隊の現況等について</p> <p>報告 3. 航空機（CH-101）93号機の用途廃止について</p> <p>報告 4. 令和 7 年度南極地域観測事業概算要求の概要について</p> |
|---|---|

【大城委員】

SCARに関して日本から約10人の参加とのことだが、どの程度発表されたのか。

また、各国隊員の健康状態等の調査に基づいて、医療事例から得られた教訓等を共有されたとのことだが、教訓になるような医療事例はあったか。

第65次越冬隊で6月に定期健康診断をされたとのことだが、異常はなかったか。

【伊村国立極地研究所副所長】

科学総会への日本からの発表は、10件～15件ほどの要旨が登録されたと記憶している。全体数に対して少ないと思われるかもしれないが、参加者、発表数は開催国近辺であるチリ、アルゼンチン、ブラジル等のラテンアメリカの若手発表が多く、ヨーロッパ、アメリカ、日本も含めた諸外国からの発表数は割合としては少ない傾向にあった。また、現地の参加費を非常に安価として参加しやすいように設定されたこともあり、地元若手が多かったことが理由に挙げられるかと思う。

COMNAPにおいて医療事例から得られた教訓等については、日本の健康判定が非常に機能していることがアピールできたと言える。日本の南極観測における健康診断の基準が諸外国に比べると厳しく、その後の夏や越冬期間中の傷病発生率で諸外国よりもかなり低く安全に運営が行われているという傾向が見え、これが各国に対しての参考事例として強調された。

第65次隊での健康診断について、顕著な問題は出ていない。越冬中に体調はある程度悪化する部分はあるかと思うが、特に問題となるような診断例はない。

【大城委員】

日本の健康判定が非常に効果的にできていることが好ましい一方、やはり越冬期間中に体調を崩す方もいらっしゃるということで、別の機会でも良いので御紹介いただけると大変参考になる。

【瀧澤委員】

COMNAPにおいて、医療事例の共有のほかに教育やアウトリーチなど非常に多岐にわたった情報共有がされていたとのことだが、日本には南極地域観測事業に関心を持たれている方も多く、国内向けにはどのように情報共有をされているのか。

また、概算要求について、様々な経費が国内でも上昇している中で観測隊員経費が減額になっているが理由を伺いたい。

【伊村国立極地研究所副所長】

COMNAPの情報共有については国立極地研究所を通じて国内の関係者に共有している。

【山口文部科学省研究開発局海洋地球課極域科学企画官】

観測隊員経費の減少については、国家公務員に対する旅費法の変更に伴う減少である。

【瀧澤委員】

観測隊の方々に対してしわ寄せがないように配慮願いたい。

【小山内委員】

COMNAPの地域別分科会に関して、特にDronning Maud Land地域の分科会では具体的にどのような内容の話がされたか。

また、ヘリの運用体制に関してCH-101の93号機が用途廃止になるとのことだが、新造機調達はいつを予定しているのか。

【伊村国立極地研究所副所長】

COMNAP地域別分科会におけるDronning Maud Land地域についての話題は、DROMLAN（ドロニングモードランド航空網）が大きく、各国基地の間で航空ネットワークの運用に関する情報交換等が行われている。プロジェクトの立ち上げではなく航空機運用が主である。

【中川文部科学省研究開発局海洋地球課長】

CH-101ヘリに関しては93号機を用途廃止とし、当面は2機体制で実施するという御報告であった。参考として新造と修理の場合の見積りを出しているが、あくまで見積り情報である。

【小山内委員】

経費的な見積りは出ているが、新造機調達に関して具体には決まっていないとのことと理解した。

【中川文部科学省研究開発局海洋地球課長】

これからのヘリの体制については、今後議論が必要と考えている。

【小山内委員】

航空機2機体制での運用を継続とのことだが、定期修理などが入ると難しい場面も出てくると思うので、ぜひ3機体制に戻せるようお願いしたい。

（審議 5．第 6 6 次南極地域観測隊行動実施計画（案）等について）

【瀧澤委員】

航空機2機体制で継続することだが、第66次隊は92号機が定期修理に入りチャータ

一機を用意している状況と思う。今後、同様に2機のうち1機が修理などに入ってしまうこともあり得るかと思うが、どのように体制を整えていくのか。概算要求の中に、そういった見積りがされているのか。

【中川文部科学省研究開発局海洋地球課長】

チャーターヘリを活用することによって、必要な輸送量は確保されている状況にある。このように2機体制でも運用していけるため、当面はCH-101に関しては2機体制というところで考えていく方向である。

【瀧澤委員】

航空機に関しては新造ではなく、必要に応じてチャーターしていくとのことで理解した。

【大沢委員】

「しらせ」の年次点検で燃料タンクにクラックが見つかり適切に修理し航海には差し支えない旨が配布資料で報告されたが、クラックは行動中に見つかったものか、あるいは入渠中の点検で見つかったのか。

【小坂防衛省海上幕僚監部防衛部運用支援課運用支援班】

燃料タンクにおけるクラックについては、出渠前に空所点検を行った際に「しらせ」乗員が発見をした。出渠時に空所を見たところ油が発見され、その後工場の工員も交えて燃料タンクから燃料を全て空にして確認したところ、クラックあることがわかった。

【大沢委員】

本船は建造から年数も経てきているので、同様の箇所に短い間隔で同様の不具合が出る可能性もあることが心配されるため、ケアをしていただければと思う。

【塩川委員】

ヘリに関して、現在錆の修理をされているとのことだが修理完了はいつになるか。しばらく直らないのであれば、来年度もチャーター機を使われるのか。その場合はチャーター機の費用は令和7年度予算概算要求に含まれているか。

【藤井防衛省海上幕僚監部装備計画部航空機課班長】

現在修理中の92号機は、修理完了が令和7年8月を予定しており、次期第67次行動には問題なく参加できる見込みである。

【中川文部科学省研究開発局海洋地球課長】

本案を御了承いただいたものとして、本実施計画は決定としたい。

審議 7. 第 6 6 次南極地域観測隊同行者（案）について

審議 8. 第 6 7 次南極地域観測隊長及び副隊長（案）について

【江淵委員】

例年、副隊長は2名体制で編成されているかと思うが、もう1人はこの後に選考されるのか。

【伊村国立極地研究所副所長】

今後検討していきたいと考えている。

【高村委員】

もう1名の副隊長を選任する手続とスケジュールについて教えていただきたい。前回の本部総会の折に観測隊のメンバーを、どこがどう決めていくか確認したい旨を発言した。連絡会決定もあるが本部総会との関連はどうなるのか。手続について改めて明確にしていきたい。

【山口文部科学省研究開発局海洋地球課極域科学企画官】

もう1人の副隊長については、国立極地研究所で検討し、副隊長をもう1人置くということになれば来年6月に予定されている本部総会で御審議いただくことになる。

また、6月の総会后、10月末まで総会が開催されないため、その間に隊員を決める必要がある際には本部連絡会で決定できることとなっている。

【高村委員】

例えば9月の連絡会で合意されたものを総会で事後的に承認、確認するということもあり得ると思うため、本部総会が責任を持って決めるという原則について確認した上での運用がよいのではないか。

【山口文部科学省研究開発局海洋地球課極域科学企画官】

御意見踏まえて運営方法を検討してまいりたい。

【大城委員】

寒冷地での活動はストレスも大きいので医学的な健康リスクの評価や、身体的適応能力の確認、年齢や男女比でのバランスも確認したく、名簿に年齢、性別があるとありがたい。公開情報である必要はないと思うが、この場では情報を出していただきたく検討願いたい。

【山口文部科学省研究開発局海洋地球課極域科学企画官】

検討させていただきたい。

【中川文部科学省研究開発局海洋地球課長】

本案、御了承いただいたものとして決定したい。

（４）事務局から次回の総会は令和7年6月を予定しており、それまでの間、緊急を要する案件などについては、本部連絡会に一任いただく旨の連絡があった。

——了——